

フェムト秒OPO用2倍波発生器 ORIA VIS

RADIANTIS



ORIA VIS は OPO シグナル光の可変波長幅 (990 ~ 1550 nm) を可視 (495 ~ 775 nm) に容易に変換する、前例のない波長域をカバーしたフェムト秒 2 倍波 (SHG) 発生器です。特に、同社の OPO 「ORIA IR」と組み合わせることで高い変換効率 (>40 %) と優れた安定性を高出力 (>400 mW) で提供します。また、コンパクトな ORIA VIS はパルス幅の広がりを軽減し、優れたスペクトルと空間ビーム品質で幅広いアプリケーションに最適なツールを提供します。

特長

- 同クラスで最高の変換効率:40 %以上出力>400 mW @ 1000 mW、ピーク波長
- 優れた出力安定性とビーム指向性
- 多彩な出力ポート装備: ① OPO シグナル光 (990 ~ 1550 nm)、② OPO シグナル光の SHG (495 ~ 775 nm)、③ OPO アイドラ (1680 ~ 4000 nm)、④デプレッション OPO シグナル光 (990 ~ 1550 nm)
- ピックアンドブレース設置: 容易に設置できるよう設計
- パソコン制御: アライメントが不要なため、メンテナンスフリーで高い操作性が魅力
- 制御ドライバも利用可能

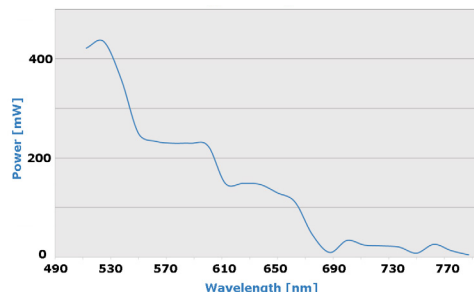
仕様

入力 (基本波)	1000 mW @ 820 nm, 140 fs (990 ~ 1550 nm)
可変波長域	495 ~ 775 nm
平均出力	>400 mW @ ORIA IR のピーク
パルス幅	<180 fs @ ORIA IR のピーク
ビーム径 @ 525 nm	2.5 mm
ビーム拡がり角 / ビーム変移	< 1 mrad / < 2.5 μm
空間モード	TEM ₀₀
繰返し周波数	80 MHz
外形寸法(LxWxH)	568 × 367 × 190 mm

アプリケーション

- 多光子励起 (MPE) 顕微鏡
- 時間分解分光法
- 多波長ポンプ・プローブ実験
- コヒレント・反ストークスラマン分光法 (CARS)
- ファイバオプティクス、光通信

一般的なチューニングカーブ



ピコ秒/フェムト秒チタンサファイアレーザ用2倍波発生器 ORIA Blue

RADIANTIS



ORIA Blue はピコ秒、フェムト秒チタンサファイアレーザ (通常 680 ~ 1080 nm) の近赤外発光を効率よく紫外から可視光 (340 ~ 540 nm) へ容易に波長変換する、革新的で使いやすく信頼性の高い 2 倍波発生装置です。光学部品 (ミラー交換、結晶) は不要です。

特長

- 45 %以上の非常に高い変換効率
- 1つの光学系で広範囲波長域をカバー
- TEM₀₀ 空間モード品質
- 赤外光と紫外光を同時出力
- 自動化ハンズフリーバージョンおよび手動バージョンの 2 種類
- フェムト秒およびピコ秒モードロックチタンサファイアレーザに対応

仕様

入力 (基本波)	2800 mW @ 820 nm, 90 fs (690 ~ 1040 nm)	3300 mW @ 820 nm, 140 fs (680 ~ 1080 nm)
可変波長域	345 ~ 520 nm	340 ~ 540 nm
平均出力	>1200 mW @ 410 nm	
パルス幅	<150 fs @ 860 nm	<180 fs @ 860 nm
空間モード	TEM ₀₀	
繰返し周波数	80 MHz	
外形寸法(LxWxH)	364 × 200 × 155 mm	

アプリケーション

- 時間分解分光法
- 量子光学
- ナノフォトニクス
- マイクロマシンング
- 単一分子分光法
- 多波長ポンプ・プローブ実験
- コヒレント・反ストークスラマン分光法 (CARS)

一般的なチューニングカーブ

